

ハヶ岳横岳西壁小同心正面クラック の記録 会心の登攀でした

OWCC 中川和道 20200113

はじめに

OWCCの松田明博さんと「横岳西壁大同心のアブミルートで、えいやっと楽しい登攀をやるよ！」とここ数年ずっとねらってきて、この2019年末に機会を得た。奈良労山の杉川明裕さんもお誘いして3人パーティーを編成してアイゼントレーニングを実施。アブミ不要のルートも加え4日間の計画を練った。ところが何と、松田さんがご親戚の火急の事情で突然のご参加中止に。杉川さんはアイゼンでのアブミがまだ済んでいないので、目標を小同心正面クラックに急きょ設定して、中川・杉川のにわかパーティーを組んで出かけた。小同心正面クラックはルートグレードⅢ級で一部Ⅳ級のムーブを含む典型的な中級ルート。赤岳西壁と違って晴天には陽光が降り注ぎ冬期クライミングを満喫できる好ルートだ。中川は10回程も登ってきた。大同心のアブミルートは次回へのお預けだが、今回の小同心正面クラックは文字どおり会心のアルパインクライミングだった。

行動記録

2019年12/27(金)22時、杉川の自家用車で生瀬発。12/28(土)3時、中央道原PA着。4時間眠って7時発。美濃戸口で計画書提出、信濃毎日新聞の取材を受ける。何と、「12/29に中川さん実名で掲載されましたよ」と労山全国連盟の川嶋高志さんが記事のコピーを送って下さった。ひえ〜、読まれておる！わるいことはできん。0810赤岳山荘駐車場着、晴、無風、気温-5℃。身支度を整え、0850発。柳川北沢をたどる。下から2本目の橋から、真っ青な空を背景に真っ白な冬姿の小同心が見える。我々を歓迎しているようだ。2パーティーが登っている。絶好の登攀びよりだ！1210赤岳鉱泉着、幕営。晴、無風、-8℃。

12/29(日) 天気予報では本日までは晴天。0430起床、晴れ微風、-8℃。0630テント発。低温(-15℃以下)の日には大同心沢の入口に「氷の華」ができるが、今回は暖かいので出来ていない。大同心ルンゼから大同心稜に取りつく。相変わらぬ急登は69歳の中川にはきつい。9時、大同心沢奥壁に着き、小同心へのトラバースを開始する。0920小同心クラックルート取付き。先行4人パーティーがあり90分の順番待ち。

1050 やっと登攀開始、晴、微風、-8℃。中川リードで1ピッチ目を登る。25mの確保点で先行パーティーに追いつく。2ピッチ目25mも中川リード。出だしにⅣ級のムーブ2歩がある。「おのれ、落ちてたまるか！」と、中川はえらく緊張した。その上は、1ピッチ目の右上の幅広いクラックに移り、両足を突っ張って登るこのルートの核心部だ。眼下によく晴れたハヶ岳すそ野が広がって気持ちがいい。確保点で杉川を迎える。「初めてなので予習したルート解説どおり、ホンマに垂直ですねえ」と言いながら登って来る。動作は安定して



柳川北沢の橋から見た12/28の小同心クラックと横岳。取付きに3名、4ピッチ目の開始点に2名が見える。

おり、なかなかいい度胸だ。3ピッチ目 25m も中川リード。夏にフリークライマーがカムで登ったせいか、ハーケンが以前より明らかに少ない。クラックが凍結する冬にカムは使いにくい。緊張しながら登り、確保点に。ここで後続のガイドパーティー3名が我々に追いつく。4ピッチ目を先に登っていいですか？と問われたので、中川は「支点が少ない。同じ支点に私もカラビナをかけることに同意されるなら、先登されてもいいです」と回答。ガイドさんは「いや、それは困る。では、別のルート(左のクラック)を登ります」とのこと。正しいご回答だ。2パーティーは仲良く左右のクラックを分け合って登った。中川は右クラックを登ったあと、小同心ピークまでは登らず、壁が終わったところで登攀終了とする。登攀終了コール 1250。

吹雪の日ならここから登ってきたルートを懸垂下降でそのまま降りるのだが、杉川は「稜線から大同心稜への下降点を教えて下さい」と言う。そこで主稜線・横岳へと登ることにする。ガイドさんパーティーは岩峰を正しく登って横岳頂上に出たが、中川パーティーは途中から左に延びる雪のバンドに入って先行パーティーのトレースをたどり、横岳頂上の少し北側で主稜線一般登山道に出て登攀終了 1400。風が少しあるが陽射しが暖かい。ゲンをかつぐたちの中川は手袋を脱いで素手で握手して登攀終了を祝う。これで中川は杉川とも「深い仲」になった。

横岳から北に延びる主稜線の一般登山道をたどると、まず鎖場やはしごが現れる。ホワイトアウト時にはこれを目印になだらかな稜をさらに 100m ほど北に行くと、岩のかたまりが稜線上にチョンと置いてあるような場所に出る。これが大同心稜の頭だ。ここからの景色を何枚も写真に収める。吹雪ではこの景色なしに下降を求められるからだ。

10分も下ると大同心ルンゼ奥壁へと下降する地点に着く 1420。ルンゼを 7m 懸垂下降し大同心からの広いバンドを大同心の側に 20m 行くと、顕著な懸垂下降点に着く 1450。ここから懸垂下降 57m。ロープ長が若干足りないので、終了点から注意深く降りる。また、風が強いとロープが吹き上げられ円滑な下降ができない。ロープ袋にロープを収納して腰につけ、少しずつ繰り出して降りる。こうして大同心取付きまで下降。ぼつぼつ暗くなっていく気配だ。大同心稜最上部に、「中川青春のピバーク地」がある。赤岳主稜などを登って大同心ルンゼ奥壁を下降し、このピバーク地でツェルトで泊まり、アルパインスタイルを磨いた。今は懐かしい日々だ。この時点 1550 で中川はくたくたヨレヨレだ。大同心稜の急な稜をたどり、1650 やっと赤岳鉱泉のテントに着く。急いで夕食。ぐっすり眠り込んだ。



12/29小同心クラックから横岳を登った後、大同心ルンゼ奥壁を懸垂下降。

12/30(月)、朝から雪。0630 起床、0℃。杉川が「横岳西壁の各ルートの取付きを確認したい。吹雪でも次回には取りつけるように」という。中川はくたくたに疲れているので迷わず同意。0840 テント発。柳川北沢右俣に沿って登山道を行くと、ヘリポートの先の橋の場所で、下って来る男女 2 人パーティーにあう。三叉峰ルンゼを目指したが悪天と体調不良でやめましたという。登山道と別れて右俣に入って登るが、降雪が続き、小同心ルンゼ、三叉峰ルンゼ、石尊稜へのトレース(前日の?)が残ってはいたが、本日は、壁や稜には誰も入っていない様子だ。0910 石尊稜取付き確認、三叉峰ルンゼ

を回って 1030 下降開始。1130 橋。

Owaf 入山情報交流でやりとりした佐藤俊明ご夫妻パーティー（行者小屋幕営）との合流を目指し、橋から行者小屋へと登る。1200、何と、佐藤パーティー3名と途中で偶然にも合流。大喜びだ。「交歓宴会を」とさっそく赤岳鉱泉に向かい、1230 鉱泉着。暖かい小屋での宴会は楽しかった。山で友人に会うのは本当にいいものだと思ふ。こういう楽しみもなくっちゃあ！



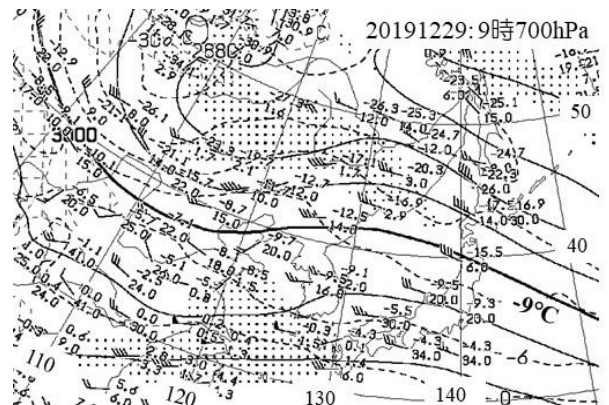
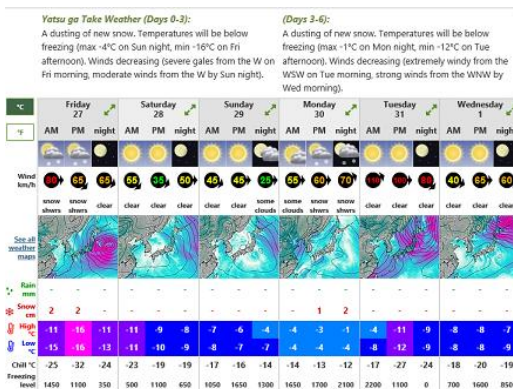
12/30佐藤俊明パーティーと赤岳鉱泉で交歓。

12/31(火)、本日は下山だ。0830 赤岳鉱泉発、雪、0℃。1030 赤岳山荘駐車場着。佐藤俊明さんにご紹介いただいた諏訪湖畔の片倉館千人風呂に向かう。まるで文化財でお風呂に入る気分だ。これはすごい。1800 生瀬の中川宅着。

中川はこのあと、ばったりだった。1/1 中川は、息を吸うと左半身が痛い異常な肩こりにやられ、ぐっすり寝込んでいた。楽しかったのはいいが、気をつけて無理のない登山をしなればと、痛切に感じさせられた今回の山行だった。

気象予報の検定

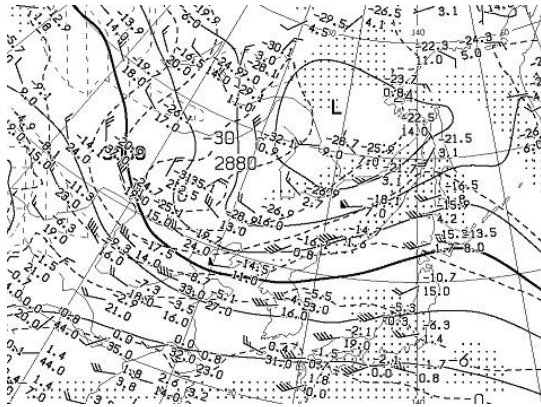
天気予報はあってたか？を検定する。数値予報 mountain-forecast.com によれば 12/28-29 は晴で



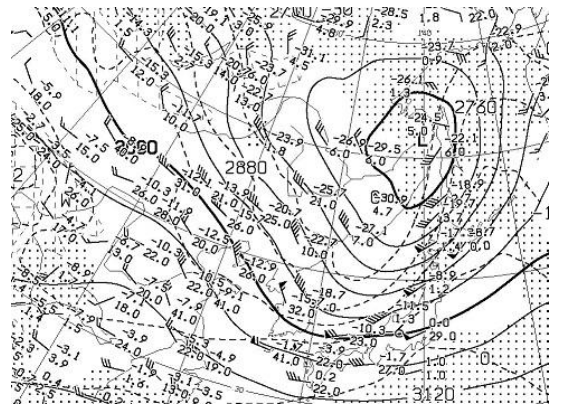
12/27のmountain-forecast.com画面,赤岳山頂の予報。

12/29 9時の700hPa高層天気図。

風弱く気温は-9℃から-4℃へと上昇, 12/30-31からは雪で気温は-4℃から-1℃まで上がり 31日午後からは急速に低下予報。この予報を登攀日 12/29 の実際の天気図と比較して天気予報の正確さを検定する。12/29 高層天気図を見ると、日本海に気圧の峰があり好天が裏付けられる。湿域は九州の南西でまだ効かない。輪島上空では-9.5℃北西の風 15 ノット(7.5m/s)で赤岳の予報は大体正しいことが分かる。次の気圧の谷や寒気は 115° 45° にある。12/30 の天気図が悩ましい。一見、日本は気圧の峰に覆われたように見えるが、湿域の影響でハヶ岳は吹雪でホワイトアウトのひどい天気。三叉峰ルンゼなど、風にあおられたチリ雪崩で、みるみる埋まり続けた。あれでは登れたものではない。天気図の見方の教訓としたい。12/31 の激しい吹雪は天気図からも明確だ。いい勉強になった。



12/30 9時の700hPa高層天気図。



12/31 9時の700hPa高層天気図。

テクニカルノート

1. ハーケンの数：小同心ルート取付きのハーケンは撤去されていたので、アルパインハーケン 2 本

を打ち、流動分散連結で使い、回収。1 ピッチ目の 10m 地点で中川は軟鉄ウェーブハーケンを 1 枚打ち込み、回収。各確保点にはペツトルボルトが複数設置されていた。ここ 10 年でハーケンは抜かれ、現状の残置数は 6 m に 1 枚と、アルパインクライミング (3m に 1 枚が最小限) には危険なレベルに減っていた。残置をあてにしない対策が必要である。ハーケンは余分に持参すべきである。

2. 水とガスの量 水は赤岳鉱泉にて入手。ガスは 2 人 3 泊で 220g 程度使用。

3. 赤岳鉱泉テント場の気温は -8℃までしか下がらなかったため、中川は寝袋内で羽毛服は不要であった。

ルート図 を右に示す。

最上部、先行のガイドパーティーは 15mⅢ級を登ったが、我々は雪のバンドを左にトラバースして縦走路に出た。

小同心正面クラック 2019. 12. 29
OWCC 中川和道 奈良芳山 杉川明裕

